

庄内町立図書館だより

# よめっちゃん

(本をたくさん  
「読んでね」との願いを込めて)

2016.9.28(No.17)



## 図書館カレンダー

★開館時間 平日(10月) 午前9:00～午後7:00  
(11月) 午前9:00～午後6:00  
土・日 午前9:00～午後5:00

おまたせしました!  
**10冊貸出**

## 読書週間特別貸出

10/15(土)～11/6(日)

秋の夜長にはやっぱり読書がオススメ!この機会にコミックエッセイやシリーズものにも手を伸ばしてみてもいかがですか?

10月



日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	○…10:00～おはなし会 (おはなしらんどポップコーン)				

11月



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	■⇒休館日		

**重要** ☆11月から平日の閉館時間が6時になります皆さん気をつけてね!

## 庄内町内藤秀因水彩画記念館

只今開催中の展覧会(～11/20(日))をご紹介します!



庄内町在住の樋渡浩氏のエッセイとイラストおよび彫刻作品約30点をご紹介します。

彫刻を専門とし、山形県美展 彫刻部門の委嘱作家である樋渡氏は、近年エッセイも多数手がけており、平成24年には高山樗牛賞を受賞しました。エッセイには、さまざまな余目ことば

の語源や用法が、昭和の余目における暮らしの様子とともに綴られています。

本展を通し、樋渡氏の多彩な活動や、余目の豊かな文化に触れてみてください。

当館収蔵品より、秋の風景が描かれた作品50点をご紹介します。

みなさんは「秋」という言葉から、どのようなイメージを思い浮かべますか?

内藤秀因は全国各地を訪ね歩き、燃えるように紅葉した木々や郷愁を誘う民家などを描きました。

絵画に捉えられた秋の世界をご堪能ください。



秋、みつけた!

## 出張図書館

in あまるめ Sh♪w 店街

9/25(日)余目駅前・茶屋町周辺で開催された「おもしろちゃあまるめ Sh♪w 店街」。

町立図書館も出張参加～!お天気にも恵まれ、親子連れなどたくさんのお客様で賑わいました。



↑青空の下でおはなし会♪  
←ぬりえ&切り紙コーナー  
は子ども達に大人気!

お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308

図書館 HP→<http://www.town.shonai.lg.jp/library/>

# 今月の職員のおすすめ本 ちっこく昔な昭和の本

## 『昭和天皇実録』を読む 原 武史/著 (岩波新書)

天皇・皇后両陛下が9月10日～12日に「全国ゆたかな海づくり大会」で酒田市、鶴岡市をご訪問になられ、庄内はもとより県を挙げて大歓迎をし、大会も成功裏の内に終わられた。一方、来県の直前に国民に向けて発せられた天皇陛下の「生前退位」のご意向は、改めて天皇制への関心呼び醒まし、国民・政界に大きな波紋を起こしている。



今から丁度2年前の9月に「昭和天皇実録」61冊が公開されている。終戦後象徴天皇として生きた昭和天皇の生誕から死去までの激動の生涯が綴られている。ここに紹介する本は昨年9月に発刊され、実録を読んだ原武史氏が昭和天皇の真実の姿を5つの視点から読み解いている。実録全巻を読み通すことが難しい忙しいあなたにお勧めの解説書の1冊である。



## 『紙しばい屋さん』 アレン・セイ/作 (ほるぷ出版)



テレビの台頭とともに、街かどで見かけることなくなった紙しばい屋さん。長い年月を経て、もう一仕事しようと、おじいさんは自転車で山をおり、町へ出ていきました。しかし、その町並みはすっかり豹変していて…。

時代とともに、変わってゆくものと変わらないもの。透明感あふれる絵で情感豊かに描かれる、ひとりの紙しばい屋さんの物語。

子どもたちにとって、紙しばい屋さんが最高の「娯楽メディア」だった時代がありました。駄菓子の味とともに、セピア色の思い出として、心の中に大事にしまっている方もいらっしゃるのでは？ 大人の方にごそ手にとって味わっていただきたい1冊です。



## 『はしれ、きかんしゃちからあし』 小風 さち/文、藍澤 ミミ子/絵 (福音館書店)

力持ちの蒸気機関車「ちからあし」は重い貨物を引いて走るのが大好き。その馬力は周囲の列車を驚かせるほど。でもある日、空を黒い飛行機が飛んでいくのを目にします。それは戦争の始まりでした。ある日、仲間の特急列車が爆撃に遭い動けなくなりました…

毎日、ただひたすらに走り続けるちからあしの姿はまさに戦後の日本人そのもの。この国を、生活を立て直すために必死に働いてきてくれた世代の強さを感じます。小さなことで悩んだり、へこたれてしまいそうな時、勇気づけられるような作品です。力強い絵にもぐっと引き込まれます。



## 『東京下町 1930』 桑原 甲子雄/著 (河出書房新社)

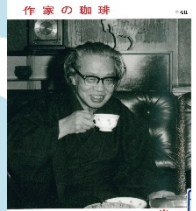


戦争へとひた走る昭和10年代、パナマハットのビジネスマン、和服に割烹着の女性、しかめっ面で立ち尽くすおかつぱ頭の女の子…市井に暮らす人々の姿がありありと収められた写真集には、どこか陰々たる空気が立ち込めています。その淀んだ重苦しささえも、今を生きる私には魅力的に映るのですが、皆さんはいかがでしょう？ 見れば見るほど、現代が急に出来たわけではなく、昔から脈々と受け継がれてきた人々の生活の上に、時代の移り変わりがあるのだと不思議な気分になります。



## 『作家の珈琲』 コロナブックス編集部/著 (平凡社)

喫茶店は、現代の私たちが昭和の残り香を感じることで、日常と非日常の間のような場のひとつではないでしょうか。本書には昭和の文筆家たちが愛して通った喫茶店やこだわりの喫茶方法、珈琲にまつわるエピソードが紹介されています。ときに第二の書齋ともなる喫茶店で生み出された作品も少なくないようです。美しい写真を眺めて、そこに滞留する昭和の空気を感じる、本書から制作風景を想像して作品を読んでみる、お気に入りの作家を真似て珈琲を淹れてみる、本書を片手に喫茶めぐりをする…さまざまに楽しめる趣味の1冊です。



## 『サッポロ一番 みそラーメンレシピ』 サンヨー食品株式会社/監修 (主婦の友社)



誰でも一度は口にすることがあるかと思いますが、サッポロ一番みそラーメンは昭和43年発売で、間もなく50周年を迎えます。シンプルに袋の作り方通りに頂くのがおいしいことはもちろんです。野菜を入れて召し上がるのも常識ですよ。ですがちょっと待った！ それだけではもったいない。グラタンやナポリタンにも変身できるんです！ 我が家では、ゴーヤチャンプルーラーメンが高評価でした。次はみそナーラ試します。昭和、平成、きっと次の時代も続いていく味の一つでしょう。



こちらで紹介した本はすべて庄内町立図書館にご借出中  
貸出し中の場合は予約もできますのでお気軽にお問い合わせください

